

第5章 基本的な方針

1. まちづくりの視点

（１）将来都市像の実現

第２次南九州市総合計画の将来都市像である「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち南九州市」の実現に向け、恵まれた自然環境の中で、地域資源を受け継ぎながら、新たな魅力を引き出し、伝統ある地場産業、貴重な歴史・文化遺産などを最大限に活かしたまちづくりを進めます。

また、少子高齢化・人口減少が進行するなかでも、『住みたい・住み続けたい』と思われるよう、「子どもから高齢者まで市民一人ひとりが希望に満ちて、活気あふれる南九州市」を実現することを重視したまちづくり・都市計画等の関連施策を展開します。

（２）一体性のあるまちづくりの実現

本市は、平成19（2007）年に、顥娃町、知覧町、川辺町の合併により新市として誕生しました。これまで進められてきた３地域のまちづくりを継承しつつ、本市としての一体性を確保したまちづくりを進めることが重要です。

都市計画において各地域で独自に進められてきたことを踏まえ、まちづくりの方向性や都市計画の導入状況、住民の意識の相違に配慮しながら、地域特性を活かしつつ、一体性のあるまちづくりを目指し、計画的・総合的、かつ役割分担と連携強化を重視したまちづくりの深化を図ることが求められます。

（３）社会経済情勢の変化に対応したまちづくりの実現

急速に進行する人口減少・少子高齢化、産業構造・なりわいの変化、豪雨等により危惧される自然災害等、社会経済情勢の変化を背景に、本市にも対応すべき課題が多くなっています。

このような状況にあっても、安全・安心が確保され、活気があり、住みたい・住み続けたいと思われるまちづくりを進めるため、地域の生活スタイルや歴史・文化の継承、産業・雇用の維持・拡大等を重視した、しなやかで持続可能なまちづくりを進めることが重要となっています。

また、人口構造の変化に対応し、コンパクトなまちづくりを進めるため、市役所新庁舎や南薩地域振興局の移転を契機として、新たな都市拠点の形成等を進めることが重要となっています。

（４）地域特性を活かし、連携・協働による広域交流等を拡大するまちづくりの実現

本市は、豊かな自然環境や自然・歴史景観、豊富な農畜産物と高い生産力、貴重な歴史・文化遺産などの優れた地域資源を有しています。また、南薩縦貫道や指宿スカイライン等の広域道路交通網が構築されています。これらを活かし、移転・定住の増加や広域的な観光交流の拡大、地域産業の活性化が重要となっています。

これらを実現するためには、広域的な周辺市との連携を強化し、限られた資源を総動員して、ハード・ソフト施策の連携・融合を図っていく必要があります。様々な関係機関との連携や市民・企業等との協働によるまちづくりの更なる深化が重要となっています。

2. まちづくりの基本理念

第2次南九州市総合計画の将来都市像である「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」を実現するために、本市を取り巻く状況、市民意向、上位関連計画、まちづくりの視点等を踏まえ、まちづくりの理念を「優れた自然環境・歴史文化資源を継承し、安全・安心の確保された交流・連携・協働に基づく、誰もが住みよいまちづくり」として設定します。

優れた自然環境・歴史文化資源を継承し、安全・安心の確保された交流・連携・協働に基づく、誰もが住みよいまちづくり

3. まちづくりの目標

まちづくりの基本理念を踏まえ、本市を取り巻く状況変化、様々な課題等に対応するため、まちづくりの目標を以下のように設定します。

① 豊かな自然環境と歴史・文化を継承するまちづくり

薩南海岸県立自然公園の海岸、開聞岳や大野岳の眺望景観、武家屋敷群の庭園景観と借景とする山並み景観などを構成する自然環境と歴史・文化資産は、市民の誇りとして、次世代に継承されるべきものです。これらの積極的な保全・活用を進め、良好なまちなみの形成、市街地の土地利用を構築し、美しい風土と文化が継承されるまちづくりを進めます。

② 広域交通網の活用による

地域産業の活性化と良好な定住環境を確保するまちづくり

南薩縦貫道をはじめとした広域交通網を活用し、観光交流の拡大、地域産業の活性化、インターチェンジ周辺等での企業立地の促進によるなりわいの確保とともに、空き家等を活用した多様なライフスタイルを実現できる暮らし・定住環境の確保されたまちづくりを進めます。

③ 安全・安心の確保されたしなやかで持続性の高いまちづくり

浸水や土砂災害等から市民の生命・財産を守り、市民の健康で快適な都市活動を支えるため、ハード・ソフトの連携した防災・減災対策により、防災機能の高い市街地の形成と災害に強いまちづくりを進めます。また、老朽化が懸念される多様な社会インフラを適切に維持・管理し、市民の暮らしやなりわいを支えるしなやかで持続性の高いまちづくりを進めます。

④ 日常生活の移動を支える公共交通ネットワークの再構築とまちづくり

人口減少・高齢化等に伴い、公共交通の利用者減少によって地域公共交通の利便性が低下しています。新たな情報通信技術を活用し、公共交通ネットワークを再構築して市民の移動手段を確保します。また、市民の利便性を高めるための公共公益施設の再配置や都市機能の誘導等によるまちづくりを進めます。

⑤ 地域の役割分担と連携による一体性の高いまちづくり

3地域（颯娃地域、知覧地域、川辺地域）の地域特性を活かしつつ、人口減少・少子高齢化に対応したコンパクトなまちづくりを進めるため、市役所新庁舎や南薩地域振興局の移転を契機として新たな都市拠点の形成を進め、地域の役割分担と連携機能を強化した多核連携型のまちづくりを目指します。また、都市の一体性を確保するため、都市計画、交通体系、自然環境の保全、定住環境の構築などを計画的・総合的に推進します。

⑥ 広域的な連携・交流とそれを支える

円滑な広域交通ネットワークによるまちづくり

南薩地域での人口減少・少子高齢化に対応した広域的な連携・交流によって、市民の生活利便性を確保するため、広域行政等による連携の更なる推進とともに、観光交流等に関する連携を深めるため、南薩縦貫道等の広域幹線道路を活用し、薩摩半島横断道路構想等の実現に取り組み、円滑な広域交通ネットワークによるまちづくりを推進します。